

# 来週の「売り物」記事はこれ



2011年8月5日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 戦争企画「鉛筆部隊 疎開の記憶 今も」①②③

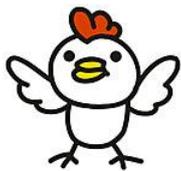
くらしナビA面 8～10日

長野県に学童疎開した東京の国民学校の子どもたちは、銃後を守る「鉛筆部隊」として多くの手紙や作文を残しました。疎開先で偶然出会った特攻隊員と遊び、遺書代わりに手紙をもらった子も。彼らの突然の死は心に傷となり、今も慰霊と伝承に歩く人もいます。



## 東日本大震災くらしどうなる・豚、牛乳のセシウム汚染

くらしナビA面 12日



放射性セシウムに汚染された牛肉が全国に流通し、消費者の不安は増えています。牛は汚染された稲わらを食べたことが要因とされますが、豚肉や鶏肉、卵などは大丈夫なのでしょう。セシウム汚染に関する読者の質問や悩みについて、Q&Aでお答えします。

## 冷たい麺はいかが？

くらしナビB面 9日

暑い夏は冷たい麺が何よりのごちそうになります。おしゃれな食を提案する料理研究家、松田美智子さんに、「ジャージャー麺風細うどん」など3品の作り方を教えてもらいました。具材を作り置きすれば、バリエーションがぐっと広がる秘策などもご紹介します。



## 近代スポーツの源泉を訪ねる

### 「月刊ロンドン五輪」がスタート

ロンドン五輪は来年7月の開幕まで、あと1年をを切りました。開催地の英国は、サッカーやゴルフをはじめ世界中に普及する多くの競技を生み出し、近代スポーツの古里といわれる場所です。そのルーツを探り、現代スポーツの状況を考えるページ「月刊ロンドン五輪」が9日、スタートします。第1回は、120年以上の歴史を誇るテニスのウィンブルドン選手権を取り上げます。白いウェアでのプレーを義務づけるなどの様式美を残しながら、近代化も模索する大会のルポです。英国のスポーツ事情を紹介する笠原敏彦・欧州総局長の連載コラムもお楽しみください。



## 長距離貨物列車 「死の列車」



中米グアテマラからメキシコを貫けて米国へ。8000<sup>キロ</sup>の道のりを駆け抜けるその長距離貨物列車は「死の列車」とも呼ばれています。車体の屋根にしがみつき、不法移民がアメリカン・ドリームを夢見て一路、桃源郷を目指す旅。飢え。転落事故。人権団体らの支援隊に同行し、あらゆる危険の待つその旅に同行取材しました。(外信部)

## シリーズ この夏、会いたい…

夕刊特集ワイド面 8日（月）～12日（金）



今年もまた、祈りの季節がめぐってきました。東日本大震災でおびたしい命が失われた2011年の＜夏＞は、これまでになく「特別な鎮魂の月」となりそうです。もし、崇高な精神を持ち合わせた、あの賢者、時代のヒーロー、ヒロインが存命ならば、大きな悲しみに包まれ、先行きの見えない「今」を、どうとらえるのでしょうか。そして、私たちにどのような言葉をかけてくれるのでしょうか……。

清冽な筆致で気高いリーダーの姿を描いた作家、城山三郎さん（8日）、理想の「教育」を追い求めた児童文学者の灰谷健次郎さん（9日）、平和を希求した詩人の茨木のり子さん（10日）、「寅さん」で知られた俳優の渥美清さん（11日）、漫画という表現で「未来」を描いた手塚治虫さん（12日）らのゆかりの人たちの話に耳を傾け、「この国はどこへ行こうとしているのか」を考えました。

「知りたいが分かる」がモットーの夕刊特集ワイドにご期待下さい。

紙面事情などにより掲載日が変更になることがあります。